

第1回総務部長交渉 「勧告完全実施」と回答

給与水準

月額平均704円引き上げ
ボーナス

0.05月分引き上げ

子にかかる扶養手当

月額300円引き上げ

11月5日熊教組は県公労（熊本県の公務員組合の集まり）の一員として第1回総務部長交渉に臨んだ。

県庁新館2階職員研修室には約100名の交渉団が座った。島田議長（熊教組委員長）が冒頭「県下各地から集まった組合員の現場の声を聞いていただいて改善に活かしてほしい。」とあいさつした。

その後、要求項目に対して県人事課長から一つ一つ丁寧に回答があった。 **挨拶する島田議長**



回答を受けて、交渉団はそれぞれの立場から職場の実態や意見を述べた。

熊教組からの参加者は以下のよう
な内容を伝えていった。（一部を
紹介）

池田総務部長(中央)



（長時間労働について）

土日に学校で仕事をするのが常態化している。そんな中、学校の階段から落ちてけがをするという事故が起こったが、公務災害申請はできなかった。休日出勤してけがをしても助けてくれない。それでは、安心して働けない。

（業務削減について）

集団フッ化物洗口が市町村事業なのにどんどん学校に丸投げになっている。

委員会活動で薬液を子どもが配っている学校もある。

洗口業務で本来の保健室業務をおろそかにされてしまう。

（臨採の待遇改善）

年代が上がるに従って給与に対する不満は募る。

同じ仕事をしているのにやる気が出ない。

任用期間外に働いている人が6割もいる。

（人事採用）

欠員臨採が見つからない。

人手が足りないため安心して休めない。

（労働安全衛生）

タイムカードを押した後、また働いている。

ハラスメントが起こるのも忙しすぎるから。

各職場から集まった交渉団



次回交渉は11月16日です

次回の交渉では、今回の交渉で焦点となった集団フッ化物洗口をはじめとする業務改善や休日出勤などの長時間労働、臨採の待遇改善、公務災害などの労働安全衛生体制づくりなどについて再回答を求め、改善を引き出していく。すでに各支部、専門部からの出席者を決定し、県教委へ名簿は提出済である。

要求実現に向けて、最後までがんばろう！

県庁前のイチョウ並木

